

# 京林大だより

No.83



絵:卒業生 熊走君

## おかげさまで第10回！林大祭を開催しました！

地域の皆様、そして林業・木材産業関係の皆様へ日頃の感謝を込めて、12月7日（日）に「林大祭」を開催しました。今年で10回目の節目を迎えることができました。これまで林大祭を続けてこられたのは、ご来場くださる皆様、そして運営に協力いただいている皆様の温かい支えがあってこそです。

心より感謝申し上げます。

当日は、350人を超える方々にお越しいただき、学生が主体となって企画・準備・運営した、手作りのカッティングボードや丸太アイスなどの木工品販売、クリスマスリース教室、地域商店等による模擬店などをお楽しみいただきました。

また、新企画として実施した1年生のチェーンソー実演、2年生森林公共人材専攻の自然素材を使ったキャンドル作りなどのワークショップも大変好評で、イベントを大いに盛り上げました。

京林大同窓会の木工品販売、京丹波森林組合の「木のたまごづくり」の参加に加え、近隣店舗やキッチンカーによる趣向を凝らした軽食販売もあり、来場者からは「新しい発見があり楽しかった。」といった声をいただきました。林大祭を通して、林業や地域の魅力を多種多様なかたちで発信することができたと実感しております。

今後も林大祭を継続できるよう、次の学年に引き継いでいきたいと思っております。



毎年人気のクリスマスリース作り



渡って遊ぶロープアスレチック



学生手づくり木工品販売



木のダンベル体験



学生によるチェーンソー実演

**頑張っています 林大生！！****今月の授業参観****『わくわくサイエンス2025』**

11月2日（日）「わくわくサイエンス2025」が京丹波町役場を会場に開催されました。

林業大学校は2023年から参加しており、今回は森や樹木の恵みを身近に感じてもらうことをテーマに「輪ゴム竹鉄砲」「葉脈標本でしおり作り」「タラヨウの葉っぱで手紙を書こう」の3つの体験ブースを出展しました。

学生がブースを運営し、竹で作る輪ゴム竹鉄砲では、完成した鉄砲を手にした子どもたちの笑顔があふれ、葉脈しおりづくりでは、葉脈の模様をじっくり見つめながら色づけを楽しむ姿が見られました。また、タラヨウの葉に文字を書いてみて、昔の人の知恵を体験し、植物と人とのつながりを感じるひとときになりました。

学生にとっても、樹木や森の魅力を体験を通して伝える喜びを実感でき、学びの多い半日となりました。

**『三林大交流会』**

11月20日（木）・21日（金）の2日間、岐阜県立森林文化アカデミーを会場に「全国林業大学校対抗伐木選手権大会（三林大〈長野・岐阜・京都〉交流会）」が開催され、本校からは2年生11名が出場しました。

大会では、チェーンソーによる伐倒や丸太の薄切り、枝払い、ソーチェーン着脱などの種目で日頃磨いてきた技術を競い合い、本校は総合3位の成績を収めました。

優勝は岐阜県立森林文化アカデミーでしたが、丸太の薄切りでは本校学生が1位～3位を独占する成果を上げました。優勝記録は、なんと厚さ2.71mmでした。

学生たちは放課後も残って枝払い競技等の練習を重ね、ソーチェーン着脱でも入賞こそ逃したものの自己ベストを更新しました。他校との交流も深まり、卒業を控えた2年生にとって、これまでの学びを振り返り、自らの成長を実感できた貴重な機会となりました。卒業後も今回の経験を胸に、今後それぞれの現場で力を発揮してくれることを期待しています。



校長室より



校長 大下 起代

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年末、長年にわたり本校の発展にご尽力いただいた名誉校長 只木良也先生がご逝去されました。

先生は「自然を尊敬できる人間を育てたい」という理念を示され、自然に学び、活かすことの大切さを教えてくださいました。また、常に深い思いやりと親しみに満ち、時には得意のダジャレを交えながら、学生や教員を温かく導いてくださいました。ここに改めて感謝の意を表し、哀悼の誠を捧げます。

令和7年は、記録的な猛暑をはじめ気候変動の影響が顕著となり、気温緩和、水資源の保持、生態系の維持等の森林が果たす役割の重要性を改めて認識させられました。森林を守り育てることは、世界的な課題であり、私たち一人ひとりの責務です。

本年の干支、丙午（ひのえうま）は、情熱と躍進を象徴します。この力強さを、森林を守る使命と学生の成長に結びつけ、名誉校長の理念を胸に、未来の林業を担う人材育成に努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。